



公益社団法人芦屋市シルバー人材センター

はつらつ 芦屋

25周年記念号!

2013・1 No.15



ホームページアドレス <http://www.sjc.ne.jp/ashiya/>

芦屋川河口は野鳥の楽園 手前からカルガモ、シラサギ、アオサギ

芦屋市シルバー

検索

撮影 笹部 成雄(会員番号873)

TEL 0797-32-1414 FAX0797-31-9223



大賑わいの「はつらつ館」新鮮野菜市

大成功！ 25周年記念イベント

「市民にも来てもらいたい！」「もっとシルバーを知ってもらいたい」会員活動委員会と事務局の企画で始まった25周年記念事業は、広報委員会も加わり議論が百出。会合ごとに案を煮詰めて「感謝と絆」をテーマに、行事を選定しました。

▼新鮮野菜市 ▼会員力作の作品展 ▼プロ棋士の囲碁セミナー
▼手作りおもちゃの子どもコーナー ▼美味しい飲み物ほっとコーナー

ポスターの掲示やチラシの配布、「広報あしや」にも広告を掲載して、10月20日、21日の2日間、「はつらつ館」を開放。晴れ渡った秋空にも恵まれ、楽しい記念イベントを開催することが出来ました。

企画した行事はいずれも大成功。山中市長はじめ1300人を超える市民や会員が来館し、「はつらつ館」の宣伝に大きく貢献。芦屋市シルバー人材センターの歴史に明るい一ページを加えました。

このイベントにボランティアとして協力してくれた会員と、三田市、養父市シルバー人材センターに感謝いたします。ありがとうございました。

(25周年記念事業会)

市内に掲示され効果をあげたポスター



山村理事長の挨拶を受けるイベントに参加の会員



廊下に掲示されたセンター活動のパネル

売り切れました！野菜市



心配したお天気にも恵まれ、250人以上のお客様に来ていただき大盛況の野菜市でした。土・日曜日の朝、三田市シルバー人材センターの方々がトラックで新鮮な野菜を届けてくださいました。10時前から多くの方が来られ、賑やかなかけ声と共に開店。旬の黒枝豆や大好評のトマト、養父市シルバーの温石米おんいしやなどアツという間に多くの商品が売れてしまい、嬉しく、楽しい2日間でした。



初めてで参加者数が掴めず不安でしたが、フタを開けてみると小学生や親子連れが次々と来場。ダーツは大人気、大きな笑い声が響き、キーホルダー作りの参加者は「世界でひとつと喜んでいました。空気砲は壊れるほど、ゴム鉄砲は何度も挑戦する子、お手玉は難しかったかなあ。帰りに全員が「ありがとう！」には感激、こちらこそ有難う。いつまでもこの思い出(絆)を忘れないでね。

楽しかったよ「子どもコーナー」

さすがプロの多面打ち！



プロとの対局という初めての試みに、当初どれ程の申し込みがあるか不安でしたが、当日の午前9時30分過ぎに、小学3年の男の子が一番乗り。結局10人の方が関西棋院のプロ芦田磯子六段に挑戦。芦田六段は同時に7人を相手に、時に熱くそして優しく指導され、多くの観戦者も熱心にその対局ぶりを見守っていました。その中の2人の対局者が見事プロを破り、賞賛されました。

珈琲の香りに誘われ三々五々、お友達と、お一人で、お子さん連れ、近隣の方々。ほっとコーナー担当の不安もどこへやら、千客万来の大賑わい。
「まあ！お菓子つき？」
「卓上のお花可愛いね。」
「珈琲おいしい！」
初めての経験でしたが、多くの方々に喜んで頂けて交流の場も広がりました。スタッフ一同も、ほっと致しました。

ほっとコーナーで一服



大賑わいの玄関受付



山中市長、中島議員、山村理事長と一服



縫製班も出店！



託児ルームを開放



会員の作品紹介

25周年の作品展には38名の会員から写真・油彩・工芸など18のジャンルに64点の出品がありました。

会員の間ではそれぞれの作品について成功や苦心談に華が咲き、来場の市民からも作品の出来栄えに感嘆の声が聞かれました。

作品全部を掲載したいのですが、紙面の関係でお一人一点とさせて頂き戴きます。ご了承をお願い致します。

(順不同)



朝焼けに輝く富士山(写真) 山村 昇



シルクスクリーン 上山清子



ワンピース・帽子(リフォーム) 長 祥子



書道 加藤登美子



中型つぼ(陶芸) 有光正磨



女人高野の秋・室生寺(写真) 今西 正



柘榴(写真) 奥田正一



ふくろう(写真) 榎原淑方

◆ はつらつ 芦屋 第15号 ◆



テーブルセンター 松岡章子



早春の芦屋川(油彩) 鈴木一生



手作りバッグ 宮本允子



果物入れ(工芸) 高倉春見



孫とチューリップ(写真) 佐々木廣明



ライン川の古城・フルステンベルグ(油彩) 北条時雄



神戸の情景(写真) 小間敏子



編み物 坪内美津子



港の風景(写真) 浪川研吉



夕風の打出浜(織物) 神吉差知子



兵庫の切手(コウノトリ)
浅井義也



葡萄(まくらめ) 山村潤子



黎明「月とマッターホルン」(写真)
黒住敬一郎



扇子 長堂起夫



中尾彬さん(似顔絵) 澤田邦洋



押し花 中村節子

洋服リフォーム
白石京子



なかよし(版画)
吉崎正俊



筆耕 岩田鈴子



甲山二彩(写真) 空谷 宏

孤高(掛け軸) 廣瀬涌雲



貫祿(水彩画) 新野純子



私の可愛い野菜たち(陶芸) 橋田町子



ファミリータウン(油彩) 神吉行彦



異人館と船(水彩) 前田 穰



チョット散歩に行こか?(写真) 津川 創



盆踊り(写真) 作野昱夫



帆船(工芸) 中西 巧

写真川柳 笹部成雄



日本最北端の花嫁(写真) 岩崎準一



ワーク・ア・ラ・カルト 機械清掃

平成23年の春に機械清掃班が発足し研修を重ねた後、同年7月に現場デビューしました。

公共施設やマンションの床面を機械を使って清掃し、指示された場所にはワックスを塗ります。

窓ガラス清掃が含まれる現場もあります。今年の夏からウレタン塗装をする現場が加わりました。

班員は10名ほどで年齢も経験も様々です。もう少し仲間を増やしたいところです。

現場の広さや注文内容に応じて4〜6名ぐらいで担当します。よく使う機械は業務用ポリッシャーです。取り付けた円形のパッド又はブラシをモーターで回転させるものです。前後操作はハンドルを水平に保って前後させ、左右操作はハンドルを下げると左に、上げると右に動くというシンプルなもの



黒住敬一郎
(会員番号1653)

ですが、慣れないと機械に振り回されることがあります。

他にシャトルワンという初心者でも扱える床面洗浄マシンや、カーペット清掃に適したアップライト式掃除機などがあります。

作業は機械と手作業の組み合わせで経験に応じて担当を決めます。汚れをきちんと落とすことが大切なのは当然ですが、ワックスを如何にむらなく塗るかが出来栄を左右します。

事務局の支援とプロの方の指導を受けながら経験を積み重ねて、より質の高い仕事が出来るといって取り組んでいるところです。



“わが家は女系家族”

小林 重信(会員番号1025)
弘子(同 1022)

昨年、76歳のご主人と73歳の奥様、「金婚式」を迎えられたご夫妻です。

徳島出身の重信さん、芦屋で生ま



れ育った弘子さんとのご縁は大阪勤務時代のグループ交際から、このことです。お互いに一目ぼれの二人、ダンスパーティーにスキーツアーなど、ロマンスに話はつきません。

・・・ご馳走さまです。紙面の都合で割愛させていただきます。・・・

弘子さんは平成16年9月に友人の紹介でシルバーに入会され、初就業はブティック、現在は週3回の家事援助、月2回の子育て保育にと活躍されています。

一方、10月入会の重信さんは駐輪管理、幼稚園見守りから始まった就業も現在は男性家事援助、そして地域班班長、安全委員としても活動されています。地元自治会では永久副会長として、また老人会でも活躍されています。

“食べ歩き”が心と身体の健康維持の妙薬、と左党のお二人は月々3回の外食が楽しみ。お薦めの店も多数ご存知です。

2人のお嬢さん、大学2年生と中学3年生のお孫さん、ペットの“女系家族”に囲まれた「おしどり夫婦」の紹介でした。

取材 鈴木一生

後期研修バスツアー 初めての徳島

11月30日(金)午前8時山中芦屋市長、山村理事長に見送られ「はつらつ館」を63名の会員が2台のバスに分乗し徳島に向かって出発しました。

明石海峡大橋を渡り、淡路島南サービスエリアで休憩し、鳴門海峡を渡って四国・徳島に入りました。目的地はNHKの連続テレビ小説「ウエルかめ」の舞台地にある「日和佐うみがめ博物館」です。

青ウミガメや赤ウミガメなど多くのカメを見物し、ウミガメが産卵のために上陸する「大浜海岸」を見下すホテルに到着しました。会員活動委員会の大内委員の司会、杵田副理事長と三栖常務理事の挨拶で懇親会がはじまりました。その後「カラオケ」や「入浴」を楽しみ帰路につきました。途中、徳島市内の「ハレルヤ製菓」でスイーツの買い物をして再び淡路サービスエリアで魚介類をゲット、午後7時芦屋に到着しました。一日、天候に恵まれ素晴らしい研修旅行を終えることができました。

取材 浅井義也



青ウミガメ 赤ウミガメ



ウミガメの飼育場



大浜海岸とホテル



ホテルでの懇親会



海の幸市場での買い物



明石海峡大橋の夜景



除草班有志

当日は、大きな穴を掘りその中にガラ石を埋め込み、ついでに切株を掘り起こし始末して(写真)、2時間ほどの作業で終わりました。皆さんからは大変感謝され、ご近所から飲物やお菓子の差し入れを沢山戴きました。

石拾いのボランティア

空地のガラ石の撤去について、私共の得意先であります芦屋市権利擁護センターの福田さんから相談を受けました。近所の住民からの苦情で、権利擁護センターが管理代行している松浜町の空地は子ども達の遊び場になっていて、「石が沢山あり危険なので撤去して欲しい」と要請を受けたのが起因でした。早速下見に行き、撤去作業を引き受けるべく参加者を募ったところ、多くの方が申し出てくれましたが、作業量から判断して4人で行ってききました。

紀行☆寄稿☆奇行？

芦屋市シルバー人材センターの歩みとともに

「奥さん、今度
シルバー人材セン
ターが発足します。

あんたも会員に」と、
隣の老人会長さんに
声を掛けられたのは

二十五年前。私はま
だ若く、「会員資格
年齢じゃないわよ」

と断ったが「あん
たの白髪頭だったら
分からへんから」と

強引に引っ張りこま
れた。「名前だけよ」
と気軽に入会した
ら、即、仕事が回っ
てきた。ダイレクト
メールの封入だ。

それ以来、実にいろいろの仕事
をさせて頂いた。

中でも思い出深いのは、七十歳
以上の方に「敬老祝い金」を配る
仕事だ。敬老の日の前に配って歩
いた。

次に翌年、名簿から旦那様の名
前が消えているのでお悔やみを申
し上げると「私、シングルになっ
たの」と奥さんは明るく言う。

反対の場合は、涙ながらに亡妻を
語る。ああ、「弱きもの、汝の名
は男なり」。

今では高齢者数も増え、市の財
政では賄えず、そのうち百歳まで
生きなければ、頂けない時代が来
るだろう。

次に忘れられないのは、スポー
ツジムの駐車
場管理だ。免許
も持たないお
婆さん二人で、
お客様の車を
機械で三台ず
つ積み上げる
仕事だ。

慣れぬ仕事

であることも、相
手が高級外車とも
分からず、無知ゆ
えに、五年間も続
いた。

その後は、自分
の能力相応の家事
サービスに就いて
いる。他人様の家
庭に入る仕事だ
が、家庭もいろい
ろだ。センスの良

いインテリアに目を奪われること
もある。私のありきたりの料理も
ブランド食器に盛り付けると、と
ても美味しそうに見える。

勿論、わが家並みの慎ましい家
庭もあるし、噂に聞いていた「ゴ
ミ屋敷」も経験し、私の好奇心は
いつも満足だ。

男性会員とペアで訪問した火災
警報器の取り付け（写真右）は、
電池の取替えを約束した十年目が
最早、目前に迫っている。

「電池取替えの時期には、私は
多分シルバーセンターに居りませ
ん」と、発注者さんには言ってい



男性会員の山中さんが火災警報器を設置している間に、
女性会員の宮本さんが使い方を説明する＝戸塚市内

地域を賞

平成19年1月 神戸新聞に掲載された
火災警報器の取り付け作業 右が宮本会員

だが、まだまだしぶとく、会員で
頑張っている。
託児では可愛い赤ちゃんに接
し、遠い子育て時代を思い出す。
毎日身体を動かすこと、多くの
人と話すこと、適度な緊張が、健
康でいられる秘訣なのかも知れな
い。とは言うものの、年齢はイヤ
でも積み重なっていく。
いつか、静かに卒業できればと
思っているのだが・・・

宮本 允子

(会員番号26)

24年度総会で特別表彰を受けた宮本允子会員



はつらつ川柳

なんでやねん

想定外の犯罪 たて続け

橋の下

集うは雑魚も 大物も

好記高齢者

お茶しましょ

入ったはいいいけど みなスマホ

コマーシャルの

サプリメントに つい視線

鳥瞰子

はやくない

あれこれあるが 物忘れ

ふうりんも

終われば寂し 秋の風

ちいばあば

父さん TAKE NO



竹野 勝久(会員番号841)

仏壇に

暑かったわねりも もう飽きた

ひとつ持ち

ひとつ忘れる 人となり

忘れな草

階段の

一番下で 踏み外す

片山シツ子

亭主とて

女房たまには 留守がいい

江口松帆

秋の夜に

泣く虫の 音に母忍ぶ

Together.S.

付けてよね

名札くらいは 事務とても

チクチク

わがニュース

世界を駆ける フェイスブック

ゴールドティー

シルバー会員に 不要のティー

ミミ

ドライバー

替えても替えても 右、左

ホールインワン

お前100

俺99まで ロマンシート

化けるなら

三段腹も なんとかしら

いたわりジジイ

最下位を

目指して頑張る タイガース

昨年も

所定の位置に タイガース

甲子園苦節

説明会

隣はなにを する人ぞ

シルバーは

元社長、部長も 関係ない

心おどる

初めてのの 就業支払日

新入会員

スマートフォン

買い替えたけど 使えない

ボケ防止

始めたジョギングで 鍵わすれ

また明日

病院で

なにかと言えば 「加齢です」

AKB48と

いわれて いずれ84

《きょうよう》と

《きょうよういく》なくなり

ボケ始まる

今日も元氣

日本語に

英語を混ぜる 歌多し

局だより

訃報の欄は 見過せず

カタカナに

息絶えだえの 高齢者

水芭蕉

孫からの 手紙



私の孫で天体の好きな来詩（写真）は、石川県珠洲市正院小学校3年生です。笹部委員からもらった「はつらつ芦屋」14号の表紙の写真と、同号掲載の「東京五輪の思い出」のコピーを送ってやったところ、左のような楽しい返事が来ました。

北川 知可子（会員番号557）

EASY GO LUCKY
Don't worry, Take it easy!!



あつい日がつづいていますがお元気ですか。手紙ありがとうございました。きんかん日食の写真がとくにすごかったのでほくもこんどあしやに行き、きんかん日食を見たいです。もっとおどろいたのはまさか、東京オリンピックでカメラマンとして活やくしたささ部さんがうつした写真だったことはすごくおどろきました。これからもお体に気をつけて元気にいて下さい。ではさよあうなら。

七月二十六日

北川来詩

北川知可子様



編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年10月の25周年記念事業には千三百名を超す市民・会員が参加し成功裏に終わることが出来ました。

会員活動委員会・広報委員会そして事務局は昨年より25周年事業についての会合を重ねてきました。芦屋市シルバー人材センターが公益社団法人に衣替えしてからの初めての大イベントが、市民の皆様にご「感謝と絆」をどのように実感していただくに苦心しました。

今回の15号は25周年行事を中心に編集。作品展に出品された38名の会員の力作を誌面でご覧頂ければ幸いです。

また、センターの案内冊子を新規に作成しました。「エンジョイ・ライフ」という題の三つ折のものです。どうぞご利用下さい。

今年も会員の皆様のご投稿をお待ちしています。皆様に喜んで頂ける「はつらつ芦屋」を作っていきたいと思えます。

浅井義也

「おことわり」

「芦屋のグルメ」・「健康の秘訣」・「はつらつギャラリ」は今号はお休みです。